

館野泉ピアノリサイタル2009 全国公演日程

後援：アイスランド大使館／在日アルゼンチン共和国大使館／フィンランド大使館
協力：avex-CLASSICS

福岡 11月17日(火) 午後7時開演
あいれふホール(福岡市健康づくりセンター10階)
主催：福岡音楽文化協会
後援：福岡市／福岡市教育委員会／(財)福岡市文化芸術振興財団／西日本新聞社／朝日新聞社
／毎日新聞社／読売新聞社／館野泉ファンクラブ九州

札幌 11月26日(木) 午後7時開演
札幌コンサートホール 小ホール
主催：オフィス・ワン
後援：在札幌フィンランド名誉領事館／北海道フィンランド協会／館野泉ファンクラブ北海道

大阪 11月29日(日) 午後2時開演
イシハラホール
主催：館野泉ファンクラブ関西／大阪アーティスト協会

東京 12月1日(火) 午後7時開演
東京文化会館 小ホール
主催：ジャパン・アーツ
後援：館野泉ファンクラブ



4カ国の作曲家による委嘱作品に寄せて

館野 泉

この11月10日で73歳になった。65歳で脳出血に倒れ、半身不随になってからは8年になる。実のところ、病から立ち直ってこんなに長く生きられるとも、ましてや、こんなに長くピアノが弾けるとは想像だにしていなかった。ただ一日一口を生き、一日一日ピアノを弾いてきただけである。人間は自分の置かれた状況を認めて素直に生きるしかないものだと思う。ピアノに触れて音が響き出すと、いつも私は生き返ったように思い、精神が冴え冴えとしてくるのを覚える。毎日のその積み重ねが作曲家たちの心にも届き、聴衆の心にも響いていくのだろう。有難いことだ。

四年前に「館野泉・左手の文庫(募金)」を創設した。圧倒的に不足している左手

のためのピアノ作品を委嘱し、左手による演奏が決して不自由なものではなく、ひとつの独立した音楽の分野あることを認識して貰いたいという気持ちからだったが、多くの方々が賛同してくださり、そのお陰で数々の左手の作品が誕生した。厚くお礼を申し上げたい。

今回演奏する四作はアメリカ、アイスランド、日本、アルゼンチンと、いずれも国籍は異なるが、30代から40代の作曲家達の新作である。作品を委嘱するにあたって私は何も特別な注文はつけていない。まったくの偶然だが、今回のコンサートは冒頭にDivertiment的な性格のC・ライト作品、そして終わりにP・エスカンデのDivertimentという形になった。その間に、緩やかなテンポでたおや

かな情感が歌われていく木島由美子の「いのちの詩」が入る。この作品は(NPO法人)山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクトの委嘱作品だが、地方にこのような活動が更に広がっていくことを切望したい。しかしなんとといっても今回のメインはT・マグヌッソンのソナタである。これは途方もない作品である。巨大で緻密で大らかでひたむきで美しく純粹な精神の結晶である。原始の人間が初めて鯨を見た時に感じたであろう畏怖の念とはこんなものかもしれないと私は思った。演奏技術の難しさにおいても古今のあらゆるピアノ曲の最先端に属するであろう。しかし技術はそれ自体が目的ではない。この曲を弾きこなすには何年もかかるだろう。でも、私は命がある限

り、この作品と付合っていきたい。

来年11月には74歳になり、演奏生活50周年を迎える。東京、大阪、札幌及び福岡で記念演奏会をするが、そのために間宮芳生、末吉保雄、吉松隆の諸氏には既に新作をお願いしている。全部室内楽作品でクラリネット、トランペット、打楽器、コントラバス、ヴァイオリン、チェロなどを含む華やかなプログラムが出来たろう。クラリネットは濱中浩一、トランペットは北村源三と、私の藝大時代の同級生が共演してくれる。そういえば末吉保雄も同級だった。楽しみにしててください。

舘野 泉ピアノリサイタル 2009

～彼のための音楽を 彼が弾く Vol.3～ 4カ国の作曲家による委嘱作品

C. ライト〈アメリカ〉:

アメリーのための組曲

「舘野泉 左手の文庫」助成作品

1. ファンファーレ
2. リフレクション
3. アライヴァル

T. マグヌッソン〈アイスランド〉:

ピアノ・ソナタ

「舘野泉 左手の文庫」助成作品

- 第1楽章
- 第2楽章 主題と変奏

*****休憩*****

木島由美子〈日本〉:

いのちの詩

(NPO法人)山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクト委嘱作品

1. 翠雨
2. 紅蓮の池
3. 月読
4. 樹水原にて
5. 桃花水

P. エスカンデ〈アルゼンチン〉:

デイヴェルテイメント

「舘野泉 左手の文庫」助成作品

- 第1楽章 プレリュード
- 第2楽章 テーマとヴァリエーション “セファルディム” (ユダヤ・スペイン系の古い歌)
- 第3楽章 アダージョ
- 第4楽章 ダンス

Program

Cody Wright:

Suite for Piano "Pieces for Amelie"

dedicated to Izumi Tateno (2009)

1. Fanfare
2. Reflection
3. Arrival

Thordur Magnusson:

Piano Sonata

dedicated to Izumi Tateno (2008)

- 1st movement
- 2nd movement: Theme and variations

Yumiko Kijima:

"inochi no uta" for piano (left hand)

dedicated to Izumi Tateno (2009)

1. Rain on young leaves
2. Pond with scarlet lotus flowers
3. Tsukuyomi
4. In the field of rimed trees
5. Melted snow water in the peach blossoms season

Pablo Escande:

Divertiment

dedicated to Izumi Tateno (2009)

- 1st movement: Prelude
- 2nd movement: Theme and variations on "Sephardim"
- 3rd movement: Adagio
- 4th movement: Dance

アメリーのための組曲

コーディー・ライト

1. ファンファーレ
2. リフレクション
3. アライヴァル

「アメリーのための組曲」は作曲家の長女の誕生を記念して、ピアニスト館野泉より委嘱された作品である。三曲ともある有名な子守唄に基づいており、全てのモチーフ

的素材はこの子守唄に由来する。聴衆は、各曲にこの子守唄の断片を聴き取ることができるかもしれないし、またそれを見いだすことができなかった者に対しては、作品の最後に答えが提示されている。

C. ライト



アメリー

C. ライト

米国カリフォルニア州、サンディエゴに生まれる。2000年、ニュー・イングランド音楽院卒業。2004年、カーネギーメロン大学音楽学部大学院修了。2004年春、オーケストラのために作曲された「トネルデュ Temps Perdu」がハリー・G. アーチャー記念賞を受賞。現在、カリフォルニア州に在住。コーディー・ライトの作品は、サントリーホール(東京)、カーネギーホール(ニューヨーク)、ラ・スコラ・カントールム(パリ)をはじめ

め、米国、ヨーロッパ各地において公演されている。作品の初演を手がけてきたのはニューヨークを拠点とするフラックス・カルテットおよびイエサラン・デュオ、ピアニスト館野泉、セルゲー・シュェプキン、鍋島真穂などである。なかでも、打楽器とサクソフンのために作曲された「アイドリーム Daydream」(2002)は好評を得て、各地にて繰り返し演奏されている。

ピアノ・ソナタ

ソールデュル・マグヌッソン

左手のためのソナタは、館野泉の委嘱により2007年～2008年の冬に作曲された、30分ほどの曲である。

二つの主要な楽章で構成され、第1楽章の形式はソナタ形式に似ており、第2楽章は主題と変奏である。第2楽章の終わりで最後の変奏が第1楽章の素材に溶け込んでいく。

この第2楽章には、長い間「盗まれたアイデア」という作業用タイトルがついていた。かなり前に14小節の短い主題を書いていたのだが、ノート・パソコンを盗まれて失くしてしまったのである。後日その曲が、このソナタの第2楽章の主題にぴったりだと気づき、どんな曲だったかを正確に思い出そうとしたが、作曲したときは1時間足らずで書き上げたのに、それを思い出すだけで2週間近くもかかってしまった。

第1楽章は、テンポⅠ:♩=69 テンポⅡ:♩=104 の2つのテンポの間を次のように何度か行き来する:

テンポⅠ → テンポⅡ → テンポⅠ →
テンポⅡ → テンポⅠ → テンポⅡ →
テンポⅠ

第2楽章 ♩=52

T. マグヌッソン

T. マグヌッソン

アイスランドを代表する作曲家の一人。初めて書いた交響曲で2004年のノルディック・カウンシルの音楽賞にノミネートされ、アイスランド音楽賞の2004年ベスト・クラシックピース・オブ・ザ・イヤーを受賞、また2003年にもピアノ三重奏曲でもベスト・クラシックピース・オブ・ザ・イヤーを受賞している。T. マグヌッソンはアイスランドの作曲家の中では若い世代に属する。レイキャビク音楽

大学でG.ハフスティンソンに師事し、1996年に作曲の学位を取得。その後パリ国立高等音楽・舞踊学校に入学を認められる。パリ滞在に関連してエマヌエル・ヌネス等に師事。アイスランドに帰国以来、数々の曲を作曲して注目され、CAPUT、トリオ・ノルディカ、アイスランド交響楽団、イーソス弦楽四重奏団等によって演奏されている。

いのちの詩

木島由美子

どんなに大事件が起ころうと、どんなにひとが苦しもうと、どんなに戦争しよう、どんなにひとが死のうと、季節はめぐり、いのちはめぐります。めぐりいのち…生きることとは、愛すること。愛があれば未来につながります。愛があるから、何があっても生きなくては…と思います。全編に「love」を音列に置き換えたモチーフ「E・A・A・E」をちりばめました。四季それぞれを連想させるキーワードをもとに、5曲で構成しました。

1. 翠雨： 若葉にふる雨の音楽。
2. 紅蓮の池： 夏に咲く紅蓮、地獄の炎にも例えられる紅蓮、美しさ、逞しさ、激しさを。
3. 月詠： 日本古来の月の神様の名前が「月詠(つくよみ)」です。呼びかけあうように。神様が呼びかけるのは…だれ？

木島由美子

福島県相馬市出身。4歳よりヤマハ音楽教室にて学ぶ。佐藤幸子氏に師事。山形大学教育学部特設音楽科卒業、同研究科修了。作曲、編曲を藤原義久氏に師事。平成13年、山形県民ミュー

4. 樹氷原にて： 世界的に有名な山形の樹氷をイメージしました。静かに、荘厳に。

5. 桃花水： 桃の花が咲く頃に流れ出す水、つまりは雪解け水のことをさす言葉です。せつないワルツを。

季節がめぐると、冒頭の雨の音楽に戻ります。何事もなかったかのように…。

木島由美子

ジカル「花咲平は夢の里」の作曲より、本格的に作曲活動開始。社団法人日本作曲家協議会、JFC東北、JASRAC、山形市児童劇研究会、各会員。聖和短期大学講師。

ディヴェルティメント

パブロ・エスカンデ

ディヴェルティメントは、日本語で嬉遊曲と訳されているが、イタリア語で娯楽という意味を持つ。最初にディヴェルティメントという言葉が使われたのは、1681年のグロッシの作品であった。その後フィッシャー、ドゥランテなどにより使われ、ポノンチーニによって様式が確立される。古典派の時代に最も盛んだったディヴェルティメントは、カッサシオン、セレナーデ、ナハトムジークなどと同じような意味合いを持っていた。主に、演奏者と聴衆に歓びと癒しを与えること、貴族の食卓、娯楽、社交、祝賀などの場で演奏されることを目的とされていた。ロマン派では一度廃れたが、20世紀はバルトーク、ストラヴィンスキー、ジャン・フランセなどにより復活した。

私が作曲したディヴェルティメントは、4つの異なった楽章から成る。全ての楽章は4度音程で関連づけられていることで、8つの調を巡って締めくくられている。様式はネオ・バロックで、ギリシャ旋法を用いた。

第1楽章のプレリュードは、ゆっくりとした導入から始まり、緊張感を高めながらアレグ

ロのパートに到達する。軽やかなアレグロは、対位法的で2部形式によりできている。

第2楽章のテーマとヴァリエーションの主題は、セファルディム(ユダヤ・スペイン系)の古くから伝わる歌を用いた。この主題を基に4つの変奏が繰り返される。4つめのヴァリエーションでクライマックスに達した後、カデンツが続く、最後に再び主題が現れる。

第3楽章のアダージョは、大変穏やかで平和に満ちた曲である。静寂の中にある自分自身の経験と日本の庭園に見出したものをこの曲に込めた。

第4楽章のダンスは、アダージョとは対照的に、ヴィルトゥオーゾで生き生きとした推進力のある曲である。ABA形式で書かれている。

ディヴェルティメント本来の意味である“楽しみ”を、作曲家、演奏家だけでなく、聴衆の方々にも感じて頂けたら嬉しく思う。

P. エスカンデ

P. エスカンデ

1971年アルゼンチン生まれ。1990年にブエノスアイレスの音楽院にて「Maestro Nacional de Musica」を取得。その後オランダに渡り、J. オッホのもとでチェンバロとフォルテピアノを、アムステルダムの旧スヴェーリンク音楽院でR. ライナに作曲を学ぶ。オランダ、オーストラリア、アメリカ、スペイン、日本他各国から委嘱を受け、色々

なジャンルの作品を作曲している。また、チェロオクテット「コンフント・イベリコ」の専属アレンジャーとしても活躍中。2007年アメリカアリエノール作曲コンクールにて名誉賞を受賞。館野泉氏の委嘱により、ヴァイオリンと左手のピアノのための小曲、ノクターンを作曲している。